みんなで暮らせば人生サイコー!

孫の力

第2号
〔まごのちから〕
島泰三 監修
〔ソトコト11月号増刊〕
2011年11月1日発行 木楽舎
1000yen

【特集】

一緒に暮らそう!

立木「出張」写真館
奥多摩「東京最深家族」の肖像

クロッチの幸せ届け旅

宮城県石巻市大指（おおざし）発

復興への願いをこめて「東北グランマのXmasオーナメント」

文＝大谷真奈美　写真＝小松稔　写真提供＝有村正一

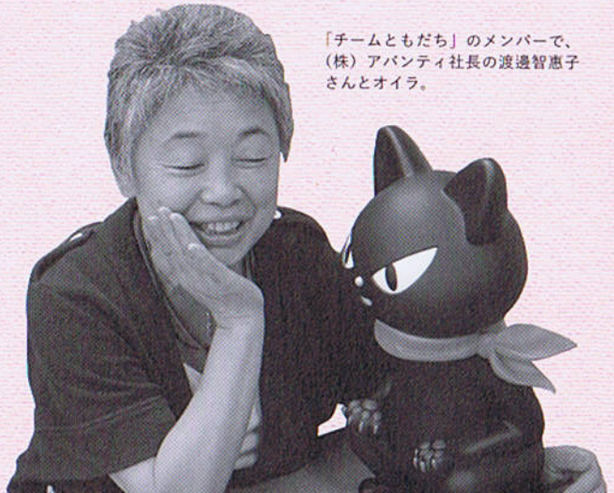
一番最初の出会い。残布を手に相談する大指のお母さんと「チームともだち」のメンバー。

グランマプロジェクトが生まれた瞬間をクロッチがレポート！

9月1日（木）、一つのプロジェクトが発表された。東北被災地3か所で作るオーガニックコットン製クリスマスオーナメント（ツリー用飾り）の販売だ。大指（おおざし）で漁業を営んできたお母さんたちと、プロジェクトを運営する「チームともだち」との出会い、プロジェクトのきっかけを、オイラ、クロッチが紹介するぞ。

報が入った。早速6月26日（日）、オイラも一緒に会いに出かけた。

宮城県石巻市北上町十三浜大指は仙台駅から車で約2時間。わずか38世帯で8割以上の住民がワカメ、昆布、ホタテ、鮭等の漁業に従事している。避難所の大指林業者生活改善センターに到着すると、なんと「お昼も用意しました！」とお母さんたちはオイラたちの分のおにぎり、手作りのおかずと味噌汁まで用意して、畳敷きの室内に案内してくれたのだった。



「チームともだち」のメンバーで、（株）アバンティ社長の渡邊智恵子さんとオイラ。

もう一度、働く場所、生きる場所をつくろう

最初の出会いはほんとうに偶然だった。震災直後、さまざまな業種の個人が集まった「チームともだち」のメンバーの一人がオーガニックコットン専門メーカーの（株）アバンティ社長の渡邊智恵子さんだ。「オーガニックコットンの残布（ざんぷ）。製品製造過程で出る余り布）を活用して、被災地の皆さんと仕事ができないかしら」。渡邊さんのアイデアにメンバー赤坂剛史さん・友紀さん夫妻から「話を聞きたいというお母さんたちがいます」という情

大指の海だよ。

お母さんたちとのミーティングはいつも、畳の上に車座だ

手探りで始まったオーナメントづくり

「私はずっと仕事をしてきました。もしも、私が3か月も仕事ができなかったら、ほんとうにおかしくなる。皆さん、一緒に仕事しましょう」。渡邊さんの力強い言葉に、最初は緊張していたお母さんたちが少しずつ話し始めた。「震災まで、朝3時からずっと何十年も仕事してきた」「船に乗らないだけで、男と同じに働いてきたんだよ」「何年もお針をやってない、こんなゴツい手でできるかねえ」。

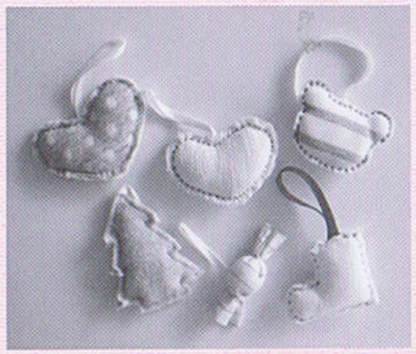
しかし、少しずつお母さんたちから「お手玉ならできるね」「ミシンは流されたけど、針があるから手縫いなら」とアイデアが出始める。「とにかく、やってみようかね」。そうして、老川さん親子を世話役に、自分たちでオーナメントをデザインしてグランマ（おばあちゃん）プロジェクトが始まったんだ。

今、10数人のお母さんたちは9時（一番早い人は7時）から集まり、クリスマスオーナメント作りにいそしんでいる。それぞれ生活改善センター裏の仮設住宅に住むようになり、オーナメント作りは大切なコミュニケーションの場にもなった。最初に作ったサンプルは、ここをああしてと何度も厳しいチェックが入った。老眼だから小さなオーナメントは見づらい。でもだんだんと慣れてきて、可愛いオーナメントが次々と出来上がっている。

子どもたちに未来ある大指地区を

大指ではお母さんたちだけでなく、お父さんも若者も頑張っている。13の漁港がある十三浜地区で大指は唯一、若者比率が高齢者比率を上回る漁業後継者の多い地区で、子どもたちも多い。

今回のグランマプロジェクトは販売して終わりじゃなく、継続的に大指を知ってもらうことも重要な目的だ。必ず漁業を復興させて、大指のワカメを震災前より有名にしよう。頑張っている男連中や元気な孫たちの未来を信じて、今日もグランマはワカメ加工用のナイフを針に持ち替えて、朝から元気にお喋りしながら、オーナメントを作っているんだ。



「東北グランマのクリスマスオーナメント」は、大指のグランマが作る小タイプ5個に、岩手県久慈市と陸前高田市の縫製工場のサポートでグランマが作る大タイプの3つを加えて、10月中旬から販売予定。

「東北グランマのクリスマスオーナメント」に関する問い合わせ先
「チームともだち」（代表：登内義也）
grandma@tomodachi.in
http://tomodachi.in/